

⑧用賀プロムナードから旧小坂邸を散策する。資料

2019年9月11日島田

今回の資料は、人物を中心に作成しました。更に、活躍された年代順といたしました。

岩崎弥之助（1851～1903）、小坂順造（1881～1960）仲代達也（1932～現在）隆巴（1931～1996）の順で紹介しました。

静嘉堂文庫美術館

静嘉堂は岩崎弥太郎の弟で三菱第2代社長岩崎弥之助とその子三菱第4代社長岩崎小弥太の父子2代によって設立され、国宝7点、重要文化財84点を含むおよそ20万冊の古典籍（漢籍12万冊・和書8万冊）と6,500点の東洋古美術品が収集されています。



岩崎弥太郎は、父の弥次郎が急逝したことで、留学を1年で中断して帰国。三菱商会に入社。兄弥太郎の事業を助け、米国の太平洋郵便汽船や英国のP&O汽船会社との競合に手腕を振るう。弥太郎が死亡してからは2代目総帥として三菱の多角化に尽力。三菱商会に共同運輸会社を合併して日本郵船を誕生させ、海運部門を切り離すことで、鉱山開発や造船建造、地所、金融、倉庫などの事業を興した。

岩崎小弥太は従兄である3代目岩崎久弥（弥太郎の長男）の後を継いで社長に就任、三菱財閥の4代目となった。社長就任後は拡大戦略をとり、各事業部を株式会社として独立させることにより、三菱財閥の形態を完成させた。ほかに三菱造船、三菱製鉄、三菱電機、三菱重工業、三菱化成などの各企業によって、三菱を日本最大の重工業企業集団に成長させた。



図書を中心とする文庫は、彌之助の恩師であり、明治を代表する歴史学者、諸橋轍次を文庫行なわれました。小弥太逝去の後、宝・重要文化財子夫人から財団孝子夫人の逝去いた収蔵品の全岩崎忠雄氏より寄贈されました。



重野安繹(成齋)、次いで長に迎え、書籍の収集が美術品は、1945年、その遺志によって、国を中心とする優品が孝に寄贈され、1975年、に際し、同家に残されてと鑑賞室等の施設が、

静嘉堂の名称は中国の古典「詩経」の大雅、既醉編の「邊豆静嘉（へんとうせいしか）」の句から採った弥之助の堂号で、先祖の霊前への供物が美しく整うという意味です。

文庫の建物は、桜井小太郎の設計により、1924年に建てられました。鉄筋コンクリート造2階建スクラッチ・タイル貼りの潇洒な外観は、当時のイギリス郊外住宅のスタイルを顕著に表しています。

庭園内にある廟(納骨堂)は、桜井の師で鹿鳴館の設計で知られる英国人建築家、ジョサイア・コンドルの設計によるものです。庭園は、武蔵野の面影を色濃く残しており美術館南側斜面の梅園や美術館入口脇のギンモクセイなど、四季折々のさまざまな樹木や花々を楽しむことができます。

旧小坂邸



旧小坂邸は、1937年から1938年にかけて、実業家・政治家の小坂順造の別邸として建てられました。小坂は長野市の生まれで、信濃銀行取締役、信濃毎日新聞社取締役社長などを歴任したほか、衆議院議員、貴族院議員を務めています。古美術品のコレクターとしても知られています。玄関前の庭にある紅葉は、玉川八景の1つである「岡本の紅葉」の象徴といわれています。

主屋は、木造平家建、一部二階建てで、屋根は入母屋造、瓦葺とし、棟上げに煙出しの檜を設けてあります。玄関土間は吹き抜けで、古民家風の梁組を見せています。

12畳半の居間は一間半の床（とこ）と付書院を設け、天井は薩摩杉を用い、数寄屋風のつくりとなっている。6畳の小応接室は、炉を切った茶室で床（とこ）は略式の壁床（織部床）で、天井は蒲簾が張られている。廊下を挟んで西側の書斎前にある水車は、八角柱が用いられています。他に横山大観が戦時中に3か月ほど滞在したことがあるという別棟の茶室が庭内にありましたが現存していません。

書斎は山小屋風の意匠の洋室ですが、柱に赤松の面皮柱を用い、天井にも赤松面皮材の大引を使用するなど、一部に和風を取り入れられています。床は寄木板張で、壁に張られた腰板には鉋目（なため）削りの装飾が施されています。暖炉のスペースにはもとは仏像を安置していました。壁は袋張りおよび空気層を持つ黒塗りの



壁で構築されています。

女中部屋脇の廊下上部には、各部屋に備わった押しボタンで呼び出しができる、女中を呼び出すための呼び鈴があります。

内倉は、鉄製の防火扉がついた2階建ての内倉であり、美術品や調度品・家財道具を貯蔵していました。主屋から南へ廊下を進むと2階建ての寝室棟があります。寝室は洋風の造りとなっており、西側にベランダ(サンルーム)が付属しています。天井は漆喰仕上げで、照明は本物の蝋燭による照明のような装飾を紙で再現しており、飾りの暖炉があります。当時はここから多摩川越しに富士山が望めました。

無名塾

無名塾の原点は、仲代達矢と宮崎恭子の自宅にあったプライベートの小さな稽古場です。1975年多忙な仲代が不在の稽古場に、夫妻を慕う役者の卵や演劇を志す若者達が芝居談義に集うようになり、そんな彼らに宮崎が少しずつ稽古をつけ、仲代も時々顔を見せ、無名塾は自然発生的に始まりました。



「素敵な次代の役者を育てたい」と、77年、無名塾は一般公募を開始。塾生の育成、更に、宮崎が脚本演出を手がけ、無名塾の公演がスタートしました。

無名塾が行った公演数は、1975年～2018年で「ハムレット」「マクベス」「リチャード三世」など40回を数えます。

仲代達也は、1932年、東京生まれ。現在87歳。



幼い頃から映画に憧れましたが、父親が病弱で早逝したため家計は苦しく、第二次大戦下に過酷な幼少期を過ごします。戦後、解禁となった洋画をはじめ、貪るように映画を観る青春時代の中で俳優を志し、俳優座付属養成所に4期生として入所。千田是也に師事し、「ハムレット」「四谷怪談」など多数の舞台に出演。映画界では小林正樹監督に見いだされ、黒澤明、成瀬巳喜男など、日本を代表する名監督の作品に多数出演し、

舞台と映画を両輪として活躍しています。

隆巴は、1931年長崎に生まれます。1950年、俳優座付属養成所入所。舞台、映画、TV女優として活躍。劇団俳優小劇場創立メンバーです。

1957年、俳優座の後輩だった仲代達矢と結婚。役者として頭角を現し始めたばかりの仲代の才能を認め、そのサポ



ートに徹するため女優を引退。その後、1960年代後半から「隆巴」のペンネーム（父・隆蔵、母・巴の名から）で脚本家として活動、映画、TVなど多くの作品を手掛けました。

無名塾公演では、脚本・演出を担って本格的な舞台創りに取り組み、毎年、全国で100ステージを超える公演の全てを常に見守り、心血を注ぎ続けました。演出代表作に「リチャード三世」「どん底」「ソルネス」など。1996年、すい臓がんのため65歳で他界しました。

用賀プロムナード

1986年、用賀駅北口から砧公園まで続いている遊歩道は、用賀プロムナードが出来大きく生まれ変わりました。

ここを設計したのは、7人の建築家による象設計集団です。彼らは、沖縄県名護市庁舎で日本建築学会賞を受賞しているユニークな集団であります。

特徴の一つは、「日本のみち」にこだわりがあります。樹木、草、土、玉石、瓦、木材、水などのやわらかな素材でやわらかな空間を構成し、のどかで楽しい雰囲気をつくりだしていることです。



もう一つは「歴史を物語る道」でなつかしく、愛着のもたれるみち 玉石の道、くわ、茶、宿場のようなしかけが、たとえば鎌倉時代からつづいた大山街道を。たとえば、谷沢川のせせら

ぎをといた事を思い出させてくれるようです。

用賀プロムナードは「いらか道」とも呼ばれますが、「いらか」というのは瓦のことで、その素材に特にこだわったようです。

やわらかいこと 足にここちよく、月日とともに色、形とも変化すること。朝、夕、四季等、時の移ろいに敏感なことなどです。

そして選ばれたのが、灰色をした淡路瓦です。淡路瓦は名前の通り淡路島の瓦で、400年の歴史を刻んだ伝統工芸的地場産業です。

用賀プロムナードに敷き詰められた様々なデザインの淡路瓦には、百人一首の和歌が刻み込まれています。

都立 砧公園

砧公園の前身は、紀元2600年記念事業として都市計画決定された大緑地。戦中は防空緑地。戦後は都営ゴルフ場であった。このゴルフ場は、元日本プロゴルフ協会会長樋口久子が、故・中村寅吉プロの手ほどきを受けた「伝説の地」

であります。

見渡す限りのみどり、そして花、芝と木立の間を流れる谷戸川、東京でも芝の広がり際立っているのが砧公園です。桜の林やケヤキやシラカシの木立が目立ちます。直線上の木立はむかし農家の防風林だった名残です。春ともなれば芝生を囲む樹林のみどりを桜の花が霞のように覆い尽くします。



フラワーランド（瀬田農業公園）

フラワーランドは世田谷区の「農業公園構想」に基づいて作られた公園で、正式名称は「瀬田農業公園」といいます。

「農業公園構想」とは、都市化・市街化の進む中で失われつつある農業景観を再現し、これから都会に生まれ育つ人たちに、農業が伝統的に受け継いできた知識と文化を享受できる場を作ろうとする構想です。

農業公園構想は、農林水産省が進める全国的展開もあり、全国37存在しています。



フラワーランドは世田谷の農業の中で大きな役割を果たしてきた花卉園芸の中心に「花づくりのできる公園」として作られました。区民参加によるエコロジカルな公園づくり、環境に配慮した循環型園芸の普及を目指している公園。園内には観賞用の花壇や植え込みの他、育苗室や圃場、作業庭などがあり、花も街づくり活動の支援センタ

ーとして園芸相談や園芸教室を行っています。

岡本民家園

昭和55年12月に開園した岡本公園民家園は区の有形文化財第1号に指定され、旧長崎家主屋と土蔵1棟、椀木門を復元し、江戸後期の典型的な農家の家屋を再現しています。茅葺きの民家と白壁の土蔵がなんとも懐かしい。囲炉裏では訪れた誰もがお茶を飲んで一服できます。



左奥には、岡本隧道があります。隧道とはトンネルのことです。かつて、渋谷町は多摩川の水を砧下浄水場で取水。浄水した水を駒沢給水所まで送り、そこから渋谷まで自然の重力で送水しました。その時、岡本台地を横断するので揚水ポンプの負荷を少なくするためにこの送水管専用のトンネルを利用したのです。